



Wilhelm·Conrad·Röntgen
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン
1895年 X線発見

放射線だより

2021年9月
No.6 (毎月発行)
担当：馬場俊明

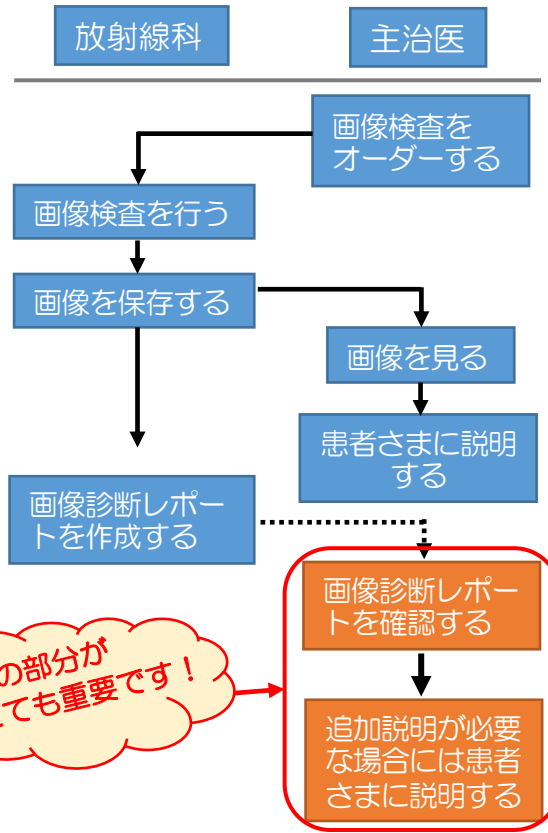
from Radiation House

放射線診断科と放射線技術部では、2021年1月より医療安全管理室と協力して、画像診断レポートの未読ゼロを目指し、特に見逃してはいけない重要（埼中）症例を拾い上げ、患者さまへの説明が行われたかどうかの確認を行っています。

画像検査を行った際、画像診断レポートを確認しなかったため、検査目的以外の所見に気付かず、治療が遅れた事例が全国で複数報告されています。



～画像検査の流れ～



この部分がとても重要です！

画像診断レポートを確認しなかった主な背景

- 画像で検査目的の部位を見て患者さまに説明した際、画像診断レポートが作成されておらず、その後見るのを忘れた
- 画像診断レポートを見る習慣がなかった
- CT検査とMRI検査を同時期に行い、MRI検査の結果で診断が確定できたため、CT検査の画像診断レポートを見なかった
- 専門領域の読影に自信があり、画像診断レポートを見なかった
- 前年の同月の画像診断レポートを当日のレポートだと誤認した

○当院におけるレポート既読状況

- 重要レポート・・・・・・・・・・36件
- 未読レポート・・・・・・・・・・0件
(期間2021年1月～6月)

「画像検査～画像診断レポートの確認～患者さまへの説明」の流れを整理し、診療手順を確立しましょう。画像診断レポートの確認にご理解とご協力をお願いします。（文責：染谷）

造影剤による副作用の再発を防ぐために

CTやMRIの造影検査ではくしゃみや発赤などの軽度の症状から
喉頭浮腫や意識消失などの重度の症状まで副作用が生じることがあります。



検査に従事している診療放射線技師や看護師は問診をした上で検査を実施しています。

- 例)
- ・喘息の既往がないですか？
 - ・造影剤のアレルギーがないですか？
 - ・過去に造影剤を使用した検査で気分が悪くなったことはないですか？

副作用が出現した患者さまで、造影検査が必要な場合には
成分が異なる造影剤の使用、事前のステロイド投与などの
対策を行なっています。

副作用の発生頻度はCTで使用するヨード造影剤で約3~5%、
MRIで使用するガドリニウム造影剤では
約1~2%といわれています。

当院の造影検査数に対する副作用発生数は
2021年4月はCTで442件中0件(0%) MRIで90件中1件(1.1%)
5月はCTで381件中3件(0.8%) MRIで80件中0件(0%)
6月はCTで422件中7件(1.7%) MRIで97件中0件(0%)
全国平均より低い発生率となっています。

放射線技術部では副作用が発生した場合、
インシデントレポートと
RIS(放射線情報システム)にその事象を記入し、
再発防止に努めています。(文責：須藤)

